

7月28日から5日間にわたって行われたICT研修では、多様なツールを活用しながら、授業改善に直結する実践的な研修が展開されました。

## 講座1 スクールタクト研修で感じた、 確かな一歩と期待



講師やサポーターの丁寧な支援も大きな安心材料となり、自信を持って活用へ踏み出すきっかけとなったようです。内容は濃く、初心者向けながらもツールの多様な可能性に触れることができ、「授業力と結びつけてこそ生きるICT」との実感も生まれていました。

## 講座2 授業に生きる機能を実感 研修で得た学びと意欲



AIによる振り返り分析や文章の可視化など、多彩な機能に驚きながらも、「2学期から試したいことが増えた」と前向きな姿勢が伺えました。実際に操作を体験することで、授業の中での具体的な活用イメージが広がり、スクールタクトの可能性を再確認する機会となったようです。

## 講座3 “知らなかった”が“使ってみよう”に iPad活用研修の手応え



iPad活用研修では、「何気なく使っていた機能がしっかり理解できた」「メモやカメラの機能にこんな使い道があったとは」と、参加者から多くの気づきの声が聞かれました。基本操作から最新OSの便利な機能まで、丁寧な説明とサポート体制で初心者も安心して学べた研修となりました。

## 講座4 体験を通して実感 ICT活用が“できそう”になる研修



クラスルームやスクールワークなど、これまで触れる機会が少なかった機能を実際に体験しながら学ぶことができ、「2学期から使ってみよう」という声が多く聞かれました。生徒側・教師側両方の立場で操作できたことが、現場での活用イメージをより具体的にしました。

## 講座5 “伝わる”プレゼンの基本を学ぶ シンプルさが生む説得力



プレゼンテーション研修では、Keynoteの操作よりも「伝えるデザイン」の基本に重点が置かれています。「内容は分かりやすく実践的」「考え方を整理できた」と高評価。生徒に見せられるプレゼンを作りたい、という意欲が多く寄せられました。

## 講座6 「基礎から広がる可能性」 iPad活用の“気づき”が満載の研修



日常の実践につながる具体的なイメージが膨らみました。生徒の作品例を紹介されたことで、活用の場面がより明確になり、「この後も使いこなせよう」と自信を持つ声も多数。iPadを“便利なノート”から“学びの道具”へと捉え直す、有意義な機会となりました。

## 講座7 “できる”を実感！ 授業に生きるICT活用研修



ClipsやKeynoteなど複数のアプリを組み合わせた動画編集は、「授業で使えそう」と多くの参加者が手応えを感じていました。授業の様子を紹介する動画も印象的で、活用のイメージがより具体化。「とりえず作れる」実用性や、簡単にできるという安心感から、「挑戦したい」という前向きな声が多数上がりました。

## 講座8 実践がつなぐ ICT活用のヒントと気づき



スクールタクトの活用事例を通じて、「どのように使うか」ではなく「何のために使うか」を問い直す機会にもなりました。そして子どもたちの関係性づくりにICTが寄与する可能性に気づいた参加者も多く、子ども一人ひとりを見つめるまなざしのもと、紙とデジタルをバランスよく使う授業づくりのヒントが詰まった研修となりました。

## 講座9 “伝わるデザイン”への第一歩 Canva活用研修



視認性や可読性、ターゲットとゴールの設定など、デザインの本質を論理的に理解できる講義は、「何を伝えるか」に立ち返る貴重な時間となりました。お便りやポスター、プレゼン資料への応用だけでなく、児童会や国語科など授業内での活用にもつながる具体的なヒントが満載。「デザインとは何か」に気づき、情報整理と共同編集の大切さも実感しました。

## 講座10 変わる時代に、変わらぬ核を ICT研修で見た新たな授業のかたち



ICTを手段として捉え、授業の本質を深く見つめ直す機会となりました。群読の授業実践では、参加者が実際にアプリを活用し、学びを体験。CanvaやKeynoteなど多様なツールに触れ、「自分も使ってみよう」と前向きな声が上がりました。一方で、「不易なものを大切に」という教育の原点にも立ち返り、変化の中でも揺るがぬ軸の重要性が改めて共有されました。

## 動画公開！

全ての講座の資料の入手と動画の視聴が可能！

下のコードから

